つるの雑記帳

田中四万十市長を訪問!協力をお願いしました

市長との懇談の様子

10月26日、多和博嗣会長ほか5名で、田中全四万十市長を訪問し、当会の活動への協力をお願いしました。

会報や平成20年度のツルの飛来状況写真などを用いて、ツル類の絶滅を防ぐために越冬地分散化が国際的な課題となっていることや、保護活動を農業や観光の振興など地域活性化につなげていきたいという想いをお伝えしました。

田中市長は真剣に話を聞いて下さり、また会報や写真等を興味深そうにご覧になって、取り組みに関心を持っていただけたようでした。

教えて!ツル博士 その1

ツルの越冬地分散化は国際的課題

出水市でのツル越冬状況

ピーちゃん：ツルの越冬地分散化って、どういうことなの?

ツル博士：現在、**日本で越冬するツルの大半は鹿児島県出水(いずみ)市に集中**しているんじゃ。例えば、ナベヅルは全世界で約1万羽生息しているといわれていて、その8割程度が出水市の干拓地(104ha)で越冬している。平成20年度はマナヅルなど他の種類もあわせて、12,028羽が越冬したようじゃ。

ピーちゃん：ツルは来れば来るほどいいんじゃないの?

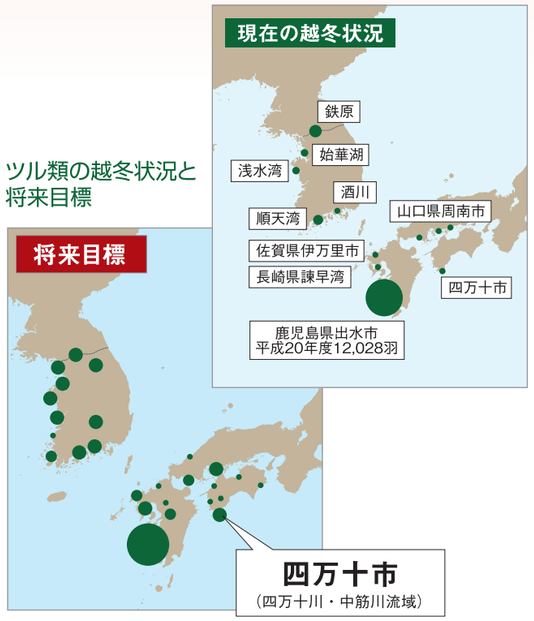
ツル博士：確かに、ツルがたくさん訪れることは喜ばしいことだし、出水の人たちも保護活動に積極的に取り組んで、ツルとの関わりを大切にしている。だが、**狭い地域に集中して越冬していると、例えば伝染病が発生したりすると、一気に絶滅してしまう恐れ**があるじゃろ。これが出水市での越冬の様子じゃ(写真)。

ピーちゃん：ツルがぎゅうぎゅう詰めだ!満員電車に乗ってるみたい。

ツル博士：人間活動や狩猟などによって、世界のツルの生息地は大きく狭まり、絶滅が危惧されている種類も多い。だから、**ツルは国際的にも守らなければならないとされている鳥**なんじゃ。わが国でも、**平成13年から国をあげて越冬地の分散化計画が進められていて、四万十川・中筋川流域も過去に越冬の実績があることから、分散化の有力な候補地**となっているんじゃ。わかったかい?

ピーちゃん：ありがとう!ツル博士!!

ツル類の越冬状況と将来目標



注)●の大きさが羽数を示しています。

ツルを見かけたら お願い

四万十川および中筋川流域で見られるツルは野鳥です。非常に用心深く常にあたりを警戒しています。特に光や物音に敏感で、一度飛び立つと遠くに飛び去ってしまい1羽も見られなくなります。自然のままのツルの生活をおびやかさないように、静かに遠くから見守って下さい。

四万十つるだよりに関するお問合せ

四万十つるの里づくりの会 事務局

〒787-0029 高知県四万十市中村小姓町46 中村商工会議所内
tel:0880-34-4333 / fax:0880-34-1451
mail:naka10@cciweb.or.jp

※この会報は セブン-イレブンみどりの基金 の助成により印刷されています。

四万十つるだより

Vol.8 ●発行日/平成22年2月22日 ●発行/四万十つるの里づくりの会
http://www.shimanto-tsuru.com

※「四万十つるだより」内のツル類の写真の一部は、澤田佳長氏(野生生物環境研究センター所長)よりご提供いただいております。

平成21年度総会 開催!

約30名が参加

平成22年2月5日、中村商工会議所において、平成21年度総会が開催されました。

はじめに事務局から、平成20年度は過去最大の72羽のナベヅルの飛来があったことから、活動が非常に活発化したことが報告されました。ツルを見かけた際の注意を呼びかける記者発表を行ったことや、当会の取り組みが紹介されたお米が全国で販売されたことなどから問合せ等の反響もあり、啓発の取り組みが効果的に行われたことも強調されました。

平成21年度の事業については、特に、江ノ村地区でのえさ場・ねぐらづくりについて、地元の農家の方々に田の管理をお願いしたことが功を奏し、今季は二番穂を十分に残せていることが紹介されました。また、当会の活動をより多くの地域の方々に知っていただくため、2月27日(土)に「四万十つるの里祭り」を開催することも説明され、身近な人への声がけと各種催し運営への協力が呼びかけられました。

事務局からの活動報告の様子

「自分たちが汗を流して啓発しなきゃ!」という会員の発意で開催が決定した「四万十つるの里祭り」(写真はポスター)

マナヅルの写真を手に説明する澤田先生

今季のツル飛来状況 ~澤田佳長先生談話~

「今季は、隣の宿毛市で3羽のマナヅルが越冬していますが、四万十川・中筋川流域では6~7回の飛行が確認されているのみで、越冬は見られませんでした。今後は、3月頃に九州からの北帰行の姿が見られることに期待したいと思います。」